

Y校国際学科の英語 –SELHi研究のコンセプト–

横浜市立横浜商業高等学校 外国語学科・国際学科

1. 研究課題：

「教育課程の工夫と教科間連携を活かした、効率的・効果的なコミュニケーションスキルの定着を目指す指導法の研究開発」

2. 国際学科における「英語」の位置づけ：

「英語は、国際学科が育成する生徒たちにとって、大切な『道具』である」
身につけさせたい3つの力＝「国際感覚」「異文化間コミュニケーション能力」「問題解決能力」

3. 英語指導の目的：

「英語が使える生徒を育成する」

4. 英語指導法の研究上の仮説：

「英語が使えるようになるには、英語を使う機会が豊富に与えられる必要がある」

5. 仮説を立証して行くための方法（＝SELHi研究課題）：

①「教育課程の工夫で、英語を使う機会を増やす」

- ・英語の時間を増やす（1年7単位、2年7単位、3年最低6単位）
- ・スキル別に科目を設定する（Reading, Writing, Oral Communication など）
- ・少人数のクラスで教授する（1クラス約40名を2分割以上）
- ・英語で書かれた教材を多用する（例：洋書教科書の採用）
- ・英語で授業を行う
- ・ALTを積極的に活用する（例：1、2年生は7時間中5時間）
- ・宿題、課題を増量する
- ・生徒が閲覧可能な英語図書貸し出しをはじめ、英語環境の充実を図る
- ・学科行事等で、実際に英語を使用する機会を確保する
- ・**授業展開の工夫により生徒の活動時間をより多く確保する**

②「教科間の連携で、英語を使う機会を増やす」

- ・教科間連携によってドリルの時間を増やす
教材の内容に関する知識については、他教科の協力を求める
- ・教科間連携によって英語を使う時間を増やす
他教科の授業でも、意識的に「英語」的な要素を盛り込んでもらう

6. 研究を進めるうえでの留意点：

- ①正確さの追求よりも、まず使わせることから始めてみる。
- ②「受験英語 vs. コミュニケーション重視の英語」というステレオタイプを再考する。
- ③誰にでもできる方法を開発していく。
- ④英語を、英米人の母語としてではなく、世界の汎用語として位置づける。